

緑地を楽しむ本

『草刈りをするハチ アシナガバチの生活』

須田貢正 さく+写真 六耀社



6月の半ばころ、我が家の小さな樅の木にアシナガバチが巣を作っているのを見つけました。巣の長さは3cmくらい。直径も5cmくらいの小さなものです。でも、そこは公道に面していて、大人も子どももよく通るのです。私は蜂を尊重しつつ、巣を撤去する方法はないものかと考えました。いつ見ても蜂は巣にいるので、手も足も出ないまま何日か過ぎました。

そのようなときに見つけたのが、この本です。蜂の生活を1年を通して追っています。初めは巣作りから子どもの世話まで、1匹でしていますが、

働きバチが生まれると、皆で分担します。暑い日には羽を震わせて巣を冷やしたり、雨の日には巣についた雨水を吸い取って捨てることまでするのです。

ある日、巣が地上に落ちてしまったら、周辺の草をあごで刈ってしまいました。そして、そばの枯草の茎に巣を安定させるための補強までしたのです。ハチの巣がちゃんと機能し続けるには、思わぬ災難がしばしば起きるようです。

蜂の一生懸命生きる姿は、見ごたえがあります。

ちなみに我が家のハチの巣は蟻にやられたのか、穴をあけられて空になってしまいました。

(齋藤 好子)